

上下水道課の経営改善について

歳入面

- 1 料金改定
- 2 未収金の削減（過年度滞納額 51,459 千円のうち 44%の 22,800 千円を回収する）

歳出面

【水道】

1 委託の見直しによる人件費削減

- ・再任用職員活用、業務委託拡大により職員数の削減を図る。（総務・料金・開閉栓を担当）
- ・平成 28 年度の 34 人から令和 5 年度に 30 人と 4 人減（11.7%・年間 25,000 千円減）
- ・隔月検針による委託費削減(31,153 千円→15,000 千円減)

2 漏水調査と老朽管の計画的な更新

- ・地下漏水の修繕により、有収率の向上と、浄水・配水処理にかかる経費の削減に努める。
- ・漏水リスクの高い箇所から更新することで、漏水の根本原因を排除し、有収率向上につなげる。
（700 万 m³ の 1%減することで、18,172 千円）

3 ダウンサイジングを考慮した施設の統廃合

- ・薬品費、修繕費、電気料などの維持管理コストを削減する。
（年間の維持管理費 42% 46,000 千円）

4 施設の計画的更新による予防保全型管理

- ・施設の老朽化対策として、計画的な修繕で予防保全型管理への転換を図り、ライフサイクルコストを 3 割低減し、施設の長寿命化を図る。
（例えばポンプ交換 3,000 千円を、500 千円のオーバーホールで寿命を延ばし、年間 30,000 千円の削減を目指す。）

5 ICT 活用による業務の効率化

- ・ICT 機器の活用で、現場点検等の人工を減らすことで委託費を削減する。
- ・点検が困難な水管橋などの施設点検について、ドローンや監視カメラ等 ICT を活用する。
- ・ソーラーパネルからバッテリーに充電し、衛星通信で遠隔カメラにより AI が水源の濁度を監視することで点検工数を大幅に減らす。